

平成24年度研究成果報告書《平成23・24年度教育課程研究指定校事業》

学校名（生徒数）	おおいたけんりつもりこうとうがっこう 大分県立森高等学校（345人）
----------	---------------------------------------

（本研究に関わる問い合わせ先）
 所在地：大分県玖珠郡玖珠町大字帆足505
 電話番号：0973-72-1129
 メールアドレス：a32710@oen-ed.jp
 学校のホームページ：<http://kou.oita-ed.jp/mori/>

【研究成果のポイント】

- 研究対象教科等：総合的な学習の時間
- 研究のキーワード：キャリア教育，新聞の活用，各教科との関連付け
- 研究成果のポイント：キャリア教育の核となる「総合的な学習の時間」において，3年間を見通した体系的な指導計画を確立する。そのために，教員間の共通理解を図り，各教科がその特性を生かした授業実践を行う。

【研究の目的，研究内容】

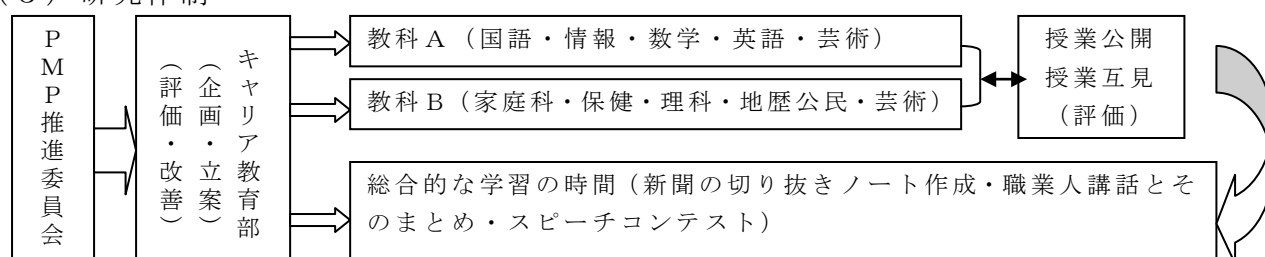
（1）研究主題

確かな知識に基づく思考力と場に応じた表現力の育成——新聞を利用した学習活動を通して——

（2）研究主題設定の理由

本校では，地域の将来を担う人材の育成及び，推薦入試（論述試験）等による進路実現のためにも，明確な進路意識の涵養と確かな論述力及び表現力の育成が急務となっている。しかし，生徒の多くは書くことに抵抗を示しており，それは主に書くための材料や技術を持たないことによるものと考えられる。「書けない」という現実，12年間の学校教育で習得した知識や技術が十分に活用されていないことを如実に表している。以上のことをふまえ，本校では，社会への関心と問題意識，さらに教科で身につけた知識や技術をもとに説得力をもって意見する力を養いたいと考え，この研究主題を設定した。

（3）研究体制



（4）2年間の主な取組の経過

平成23年度	6月	生徒意識アンケート（キャリア教育部） 「新聞の切り抜き」における取組方法の工夫（1年部）
	8月	「職業人講話」の講話のジャンル及び講師の選定（キャリア教育部）
	11月	「国語総合」での授業研究（1年国語科）
	12月	指導計画に関する研究協議（キャリア教育部，各教科主任，分掌主任）
平成24年	4月	「新聞切り抜きノート」の改訂（キャリア教育部） 職業人講話のジャンル及び講師の選定（キャリア教育部）
	6月	生徒意識アンケート（キャリア教育部）
	9月	「職業人講話」事前学習の授業研究（1年部）

度	11月	指導計画に関する研究協議（キャリア教育部，各教科主任，分掌主任） 「職業人講話」まとめ→プレゼンテーション（1，2年部）
---	-----	---

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進め上での工夫点等

項目	工夫・特色等	取組の成果
1. 「切り抜きノートの改訂」	・各学年テーマを設け、それに応じて記事を選定する様式に改訂。(1年「人に学ぶ」，2年「社会を知る」，3年「自分の生き方を考える」。) 2年生は「職業人講話」に合わせたテーマで記事を選定する。	・特に1年生では新聞記事選定のポイントが明確になり，効果的であったが，2年生ではテーマの理解そのものが難しく，個人差が大きくなった。
2. 職業人講話のジャンル及び講師の選定	・現代的な課題に添ったテーマとその講師，また活動予定を4月中に決定し，生徒にも通知した。	・生徒への意識付けの効果は大きい。また活動予定が明示されたため，特に情報科，国語科の授業が実践的なものになった。
3. 生徒意識アンケート	・社会や学習，「書くこと」への意識を調査する。特に2年生では意識の変化を見る。	・2年生の「書くことへの抵抗」に変化はないが，社会への関心の高まり，書き方の習得は見られた。
4. 「職業人講話」事前学習の授業研究	・各自の「切り抜きノート」から人の生き方について考え，後に班内で意見交換を行う。	・活動を振り返ることで，次の活動へのつながりが生まれる。
5. 指導計画に関する研究協議	・主にプレゼンテーションの工夫について協議。	・ポスターセッション等，新たな発表形式の示唆を得た。
6. 「職業人講話」事後（まとめ）学習でのプレゼンテーション	・2年生はパワーポイントと新聞，1年生は壁新聞を作成した。クラス審査の後，1，2年生合同の発表会を行う。1年生はポスターセッションを試みた。	・文字と映像（視覚情報）の違いを生かした，効果的な意見発信を学ぶことができた。全員に発表の場を持たせたことで，生徒の成長が見られた。

【研究成果とその意義】

(1) 研究成果

1，2年時の「職業人講話」を3カ年の活動の核にし，各学年の活動目標を明確に示したことで，生徒の学習態度が意識的かつ積極的なものになっただけでなく，講話内容や社会問題への共感や理解も深まり，進路意識が高まった。さらに，各教科においても年間指導計画が立てやすくなり，特にプレゼンテーションの指導をより実践的に行うことが可能になった。

(2) 研究成果の意義等

「職業人講話」を核に3カ年の活動を計画することで，「総合的な学習の時間」は自分の生き方・在り方を学ぶキャリア教育の根幹を形成することができる好機となる。また，学習活動に様々な要素を取り入れることは，教科との連携強化だけでなく，生徒の言語活動の充実，思考の深化につながることもわかった。

(3) 指定期間等の終了後の取組

研究指定は終了しても実践は緒についたばかりで，この「総合的な学習の時間」が初めて成果を見るのは2年後であるが，統合を3年後に控え教職員の異動が多くなることが予想される。取組が継続されるような研究体制の確立と維持が最大の課題である。